

令和4年度「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業 成果報告書（概要版）」

長野県教育委員会

1. 背景・目的

在籍校の授業と級友とのつながりを作ることによる、「生徒の思い」を大切にした学習支援の実施

- ①学習機会の保障と退学や原級留置の防止
- ②在籍校への所属意識の維持
- ③心理的不安の軽減

2. 事業の内容及び成果

- (1) 学習支援を受けた生徒に対してアンケートを実施⇒支援の在り方について検証
全体としては「満足」「おおむね満足」という回答を得た。
「復帰後も授業についていけることがよかった」「授業以外で級友と関わることができて良かった」
「配信される授業で映る黒板が小さくて見づらい」などの意見を得た。
- (2) 全県教頭研修会で病弱生徒に対する学習支援についての講演会を実施⇒各校での周知
当日の講演動画と講演資料を全校共有サーバーで共有した。
講演会后、本課へ学習支援についての問合せが増え、7名の長期入院生徒に対して7校が支援した。
- (3) 多くの教員がICT機器を活用するスキルを身に付ける⇒教室で受ける授業内容に近い学習内容を提供
ICT教育推進センター職員を担当に追加し、各校の実情に応じた学習支援を可能にした。
多職種カンファレンスに出席し、ICT機器の貸出や活用について助言した。
- (4) 学習支援コーディネーターを設置⇒生徒に寄り添った学習支援体制を構築
多職種カンファレンスでは、生徒の状況について情報を共有した。
他校の事例を参考にしながら、学習支援の在り方を検討した。
- (5) 病院や中学校へ学習支援について周知⇒中学生の進路の選択肢の拡大
高校入学時から学習支援を必要とする生徒に対して、病院等と連携し、速やかに支援を開始した。
チラシ及びリーフレットを送付し、本事業の周知を図った。

3. 今後の課題

- (1) 学校に向けての学習支援の更なる啓発
教頭研修会等での更なる情報提供や、各校の学習支援事例の共有に努める。
- (2) 生徒・保護者、医療機関に向けた「県立高校に在籍する生徒の入院時学習支援事業」の周知
引き続きチラシ及びリーフレットによる周知を図るとともに、医療機関との連携の拡大に努める。
- (3) 学習支援内容の研究
グループ学習への参加方法、授業評価の方法などについて研究する。

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。

報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1422837_00003.htm

